

【分野】 水産

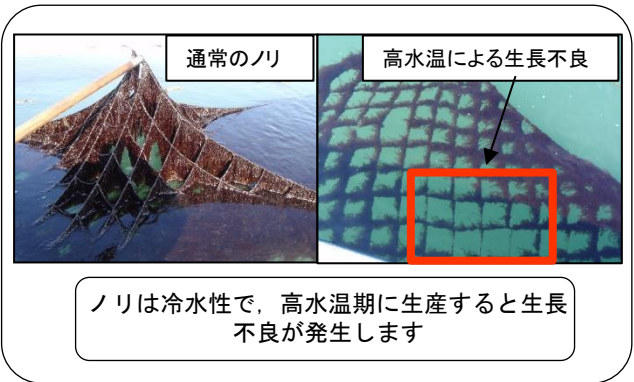
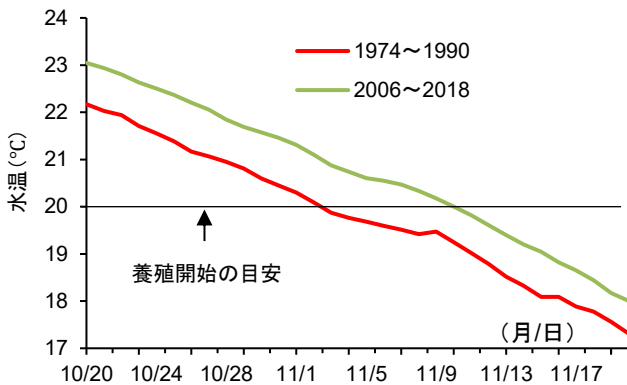
ICT技術を活用した海域環境予測

【要約】

1週間後までの水温の予測システムを開発しました。

【背景】

近年、気温上昇に伴って海水温も上昇し、ノリ養殖の開始時期が遅れが生じています(図1)。水温の予測ができれば、適切な時期に養殖を始めることができ、生産量の安定につながります。



ノリは冷水性で、高水温期に生産すると生長不良が発生します

図1 過去と近年のノリ養殖開始時期の水温の推移

【結果】

1 予測式の開発と検証

水産研究所が継続的に取得している牛窓沖の水温データを基に理論平年値を作成し、理論平年値と現在の水温との偏差を基に7日後の水温を予測しました。その結果、7日後の見込み値と実測値の偏差が1°C以内になる割合が92%となり、目標値(90%)を上回りました(図2)。

2 ホームページでの公開

一定の精度があることが分かったので、水産研究所のホームページでデータを公表しました(図3)。

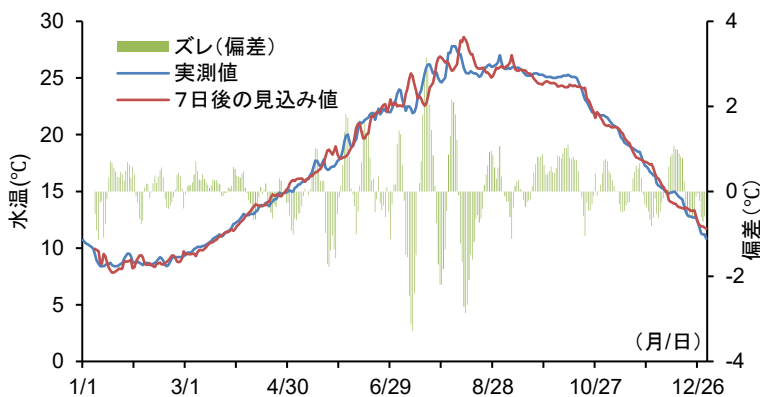


図2 2021年の牛窓沖の実測値と7日後の見込み値、両者の偏差

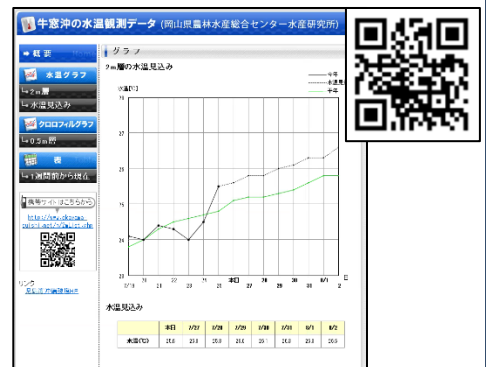


図3 公表しているホームページ (<http://www.okayama-suishi.net/graphprediction.php>)

担当：水産研究所 漁場環境研究室(0869-34-3074)

研究課題名：ICT技術を活用した海域環境の予測技術の開発 (R4~R5)